

マコガレイ種苗の放流について

マコガレイは、茨城県沿岸における重要な漁獲対象種です。主に底曳網、はえ縄、固定式刺し網で漁獲され、平成26年以降は年間9～54トンが水揚げされています。

茨城県では、水産資源の維持・増大を図るため、種苗(稚魚・稚貝)を生産し、海に放流して育てる「栽培漁業」を行っています。マコガレイは、「第8次栽培漁業基本計画」の対象種として選定されており、水産試験場では、適切な放流の手法や効果について検討するため、毎年15万尾を目標に種苗の試験放流を行っているところです。



図1 マコガレイ稚魚

マコガレイの種苗生産

マコガレイの種苗は鹿嶋市に所在する茨城県栽培漁業センターで生産されています(図1)。本年は1～2月に孵化した仔魚を育成し、5月中旬に全長14～76mm(平均38mm)の種苗が約25万尾生産されました。

種苗の放流

生産された種苗の放流は、昨年度までは常陸那珂港周辺で行っていましたが、放流効果の比較を行うために、今年度は新たに鹿島港周辺を選定し、令和4年5月18日に、まず約21万尾の稚魚を放流しました(図2、3)。残りの4万尾の種苗はさらに育成を進めた後に、放流を行う予定です。

種苗は平均全長38mmと小さいため、目印として外部標識をつけることはできません。そのため、頭の中にある耳石という組織に標識を付けています(図4)。今回は、約7.7万尾の種苗に標識を付けて放流しました。

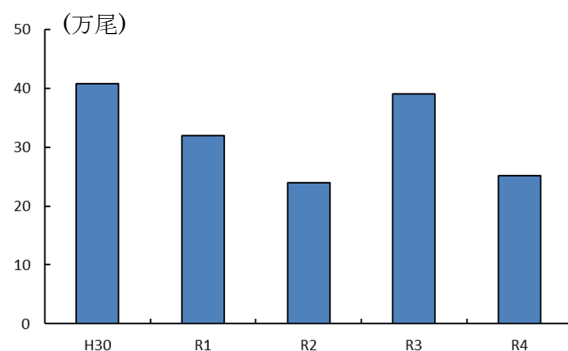


図2 年度別のマコガレイ種苗の放流尾数
※R4分は放流予定尾数



図3 放流作業の様子

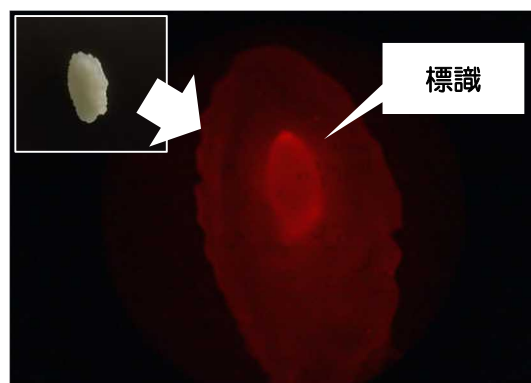


図4 標識が付いたマコガレイ耳石
(標識付け後、2年間飼育した個体)

種苗の成長と追跡調査の実施

マコガレイは1年で全長15cm、2年で25cm、3年で30cmほどに成長するため、現時点では令和2年以前に放流した種苗が漁獲加入していると考えられます。水産試験場ではこの頃のマコガレイに焦点をあてて、放流した種苗がどの程度漁獲加入しているかの調査を行ってまいります。

今後ともマコガレイの調査にご理解、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

(定着性資源部 浦本高志)